



武士の時代が始まる

平安時代の終わりごろになると、武器を手に自分たちの土地を守る豪族や農民が出てきました。武士の登場です。下野国でも少しずつ武士が力をつけるようになると、国府の力が弱まっていき、11世紀中ごろに下野国府はその役割を終えました。

鎌倉時代には、代々国府の役人を務めた小山氏が、今の栃木市東部に勢力を伸ばし、栃木市南西部は小野寺氏がおさめていました。それぞれの武士団は、鎌倉幕府や室町幕府に協力しつつ、自分たちの領地やそこに暮らす人たちを守るために、日本各地で戦いをくり広げていました。幕府の力が衰えた戦国時代になると、今の栃木市の範囲で強い勢力をもっていた武士として、小山氏一族の皆川氏、宇都宮氏一族の西方氏などが登場します。

1584年 沼尻の合戦 (藤岡町大田和・甲・都賀)

宇都宮氏を中心とした北関東の武士たち(皆川氏、佐竹氏、結城氏)が、下野国に攻め込んできた相模国(現在の神奈川県付近)の北条軍を三轟山南東山麓の沼尻で迎えました。戦いは両軍がにらみあったまま3か月も続き、勝敗がつかないまま北条軍は沼尻から退きました。



空から見た沼尻合戦古戦場あと



江戸時代まで生き延びた下野の戦国武士、皆川広照



下野国の戦国武士の多くが、江戸時代までに身分や領地を取り上げられて姿を消しました。しかし戦国の世をかしこく生きぬいた武将もいます。それが皆川広照です。広照は徳川家康などの実力者たちから信頼されて、江戸時代も大名として生き残りに成功。最後は江戸幕府3代将軍の徳川家光の話相手をつとめ、80歳で亡くなりました。

...column 教えて!とち介...



栃木市内に お城はあったの?

市内には鎌倉～安土桃山時代の城跡が残っています。その代表が「西方城」です。

西方城は戦国時代の初めに築城されたと推測される西方氏の城です。お堀や土の防壁に囲まれた山城で、山の高低差を巧みに利用した防衛拠点を配置。入り口をせまくしたり(虎口)、通路の横からも攻めき(横矢)できるような防衛の工夫がいくつも見られます。西方城は、敵の侵入を阻むためのたくさんの工夫を知ることができ、戦国時代の戦いの様子を実感できる貴重な遺跡です。

西方城跡航空写真

